

# 令和6年度 第3回東御市総合教育会議 会議録

---

## 1 日時

---

令和6年 11 月 20 日(水) 午前 10 時 40 分から正午まで

## 2 場所

---

公室

## 3 議題

---

- (1) 東部地区小学校給食センター基本設計について
- (2) 小中学校の不登校について
- (3) 小中学校の学力等の状況について
- (4) 小学校の入学者数について

## 4 出席者

---

○市長 花岡利夫

○教育長 山口千春

### ○教育委員

教育長職務代理者 小林経明

委員 直井良一

委員 五十嵐英美

委員 小林利佳

委員 富岡志津子

### ○その他

深井教育次長、土屋教育課長、春原保育課長

高野学校教育係長、小宮山学校施設係長

長岡指導主事、畑田指導主事

塚田学校教育係主事

## 会議録

---

深井教育次長

ただ今から令和6年度第3回東御市総合教育会議を開催します。  
はじめに市長からごあいさつをお願いします。

花岡市長

給食センターに関しましては、9月議会で補正予算をご承認いただき、10月末に基本設計を完了後、続けて実施設計に入らせていただいています。後ほど担当から説明をしていただきます。

12月議会や市議会議員選挙においても、小学校の統廃合を検討すべきではないかというご意見をいただいています。明治の小学校を作るためにできあがったコミュニティを心の拠り所として地域づくりにも関わってきますが、特に市では、5つの小学校の集合体として築いてきました。小学校を守っていくための給食センターでもあると考えています。ただ、学習の質が要求されている中学校の専科のレベルを一定程度の高さと維持していくことは、北御牧中学校は現状のままでは難しいと考えています。バランスのとれた中学校というものを考えていく方が、小学校の統廃合を考えるよりも、重要であると認識しています。そのことに関して、教育委員の皆様方にも、ご配慮いただければありがたいと考えています。委員の皆様からご意見をいただきながら、東御市の子どもたちが幸せに人生を送るための学びとはどこにあるのか、というところを探っていければと考えております。子どもたちのために、よりよい議論ができることを祈念して、ご挨拶に代えさせていただきます。よろしくお願いします。

深井教育次長

続きまして、教育長からごあいさつをお願いします。

山口教育長

教育委員の皆様には先ほどの定例教育委員会に続き、よろしくお願いします。

本日の内容は、先ほどの市長の挨拶にもありましたが、給食センターのほかにも、不登校、学力、小学校入学者数等についてであります。担当が説明いたしますので様々な角度からご意見をいただき、意見交換をしていただきながら、情報共有や共通理解を図って、今後の業務推進に活かして参りたいと考えています。いずれにしても、子どもたちや教員が安心して園や学校で生活ができ、保護者が園や学校に安心して子どもを送り出せる、そんな環境をさらに充実させたいと思います。ご協議よろしくお願いします。

深井教育次長

ありがとうございました

それでは、議題に入らせていただきます。議題(1)東部地区小学校給食センター基本設計につ

いてです。現在の状況と今後のスケジュールについて事務局から説明します。

#### 小宮山学校施設係長

説明します。今回は基本設計の概要についてです。

計画概要は、東部地区4小学校の老朽化、衛生基準、アレルギー対応等様々な点で課題があり、それらを解決するために、田中小学校の敷地に隣接する場所に給食センターを建設するというものであります。センターの中では、炊飯エリアを設け、4校に加え、東部中学校にも提供できるような体制です。また、食育に関しては、実際の調理工程を見て学ぶことができる見学スペース等を設ける計画をしています。この施設では1500食での基本設計をしています。周辺環境に配慮した計画、メンテナンス性に配慮したもの、安全性と機能性を重視した敷地内動線、高い衛生水準を確保した配置計画、効率的で質の高い施設設備、食の学び場(食育推進)と情報発信機能の充実の6点の基本方針を踏まえて、基本設計を行っています。

建物を敷地中央付近に配置し、隣地境界との離隔距離を十分に確保し、周辺への騒音や屋根の勾配を緩やかにし、周辺の日陰の影響を抑制する計画です。また、建物を一周回れるような配置をし、配送車の旋回等を考慮して十分な広さを確保しています。雨の日でも濡れないように大きなひさしも計画しています。建物内は、汚染区域、非汚染作業区域を明確にした配置であり、機器等のレイアウトは栄養教諭や調理員等との話し合いを何度も重ねたうえで計画しました。アレルギー対応専用調理室を設け、現在の衛生基準を満たす設計内容です。2階からは1階の調理スペースが見学できる設計です。この他、屋上に空調機等設置場所を設け、消音ルーバーを取り付けることで周辺への騒音等の低減を図る設計です。窓等の配置は今後の実施設計において詳細を詰めていきます。

建物概要です。延床面積が1,667.61㎡、構造は鉄骨造、2階建てと一部平屋建て、建物は準耐火構造となっています。耐震性については、市内の学校関係施設と統一をしています。地盤については今後改めて実施設計の中で調査を行います。現段階では隣接する田中小学校体育館のデータを参考に設計しています。受変電設備では6,600Vで受電し屋外受変電設備へ給電します。LED灯を基本として、省エネルギーに努めます。基本設計では、屋根に太陽光発電設備を設置し、建物内自家消費を検討していますが、これについては今後実施設計の中で、民間活用等を含めた中で再度検討させていただきます。非常用災害用発電機設備は、消火栓設備、検食・保存用の冷凍庫、冷蔵庫の稼働を可能にするような形での対応で、停電時に発電機を持ち込むことにより稼働できる専用端子を設ける計画となっています。

機械設備についてです。食品関連施設に用いる器具はHACCP対応とし、給水設備は受水槽を経由して各所へ給水し災害時にも活用できるような計画です。給湯設備は、蒸気熱源の温水発生器を計画しています。蒸気設備はガス焚き蒸気ボイラを計画し、安定供給を図ります。また、事務所に中央管理装置を設置し、各設備の機器の状態監視ができるよう計画しています。

最後に、今後のスケジュールです。基本設計は10月31日をもって完了しています。9月議会で実施設計の補正予算が承認となりましたので、現在は設計の発注業務を行っています。併せて、建築基準法第48条の建築許可に係る県への協議や、用地交渉等も進め、令和7年8月頃を目途

に完了する方向です。その後、建築確認申請、農地転用申請等の諸手続きを行い、早ければ、令和7年末から年明け頃に造成工事に着手していきます。建物の建築工事は令和8年度から1年半ほどかけて進め、令和9年7月末の完成予定です。その後、各学校で給食提供がない夏休み期間中に試験運用等を行い令和9年夏休み明けから給食の提供開始を目指しています。このスケジュールは現時点のものであり今後変更する可能性があります、可能な限りスムーズに進めてまいります。

深井教育次長

この内容について、ご意見等ありますでしょうか。

花岡市長

冷暖房については、太陽光発電による自家発電を使用していく計画もあり、GHP にするメリットがあまり感じられないことから、EHP で検討する方がよいのではないかと。

小宮山学校教育係長

その点や熱源については、詳細設計の中で検討していきます。

花岡市長

脱炭素というものは市をあげてやろうとしている取組みであり、進むべき方向性が明確になっていますので、それに合わせていただく方が良いと思います。

小宮山学校施設係長

再度設計業者と検討します。

深井教育次長

詳細な設計については今後検討進めていきます。今後のスケジュールについては、この場で共有させていただきました。4小学校について、給食の提供開始になるまでの間は、今の給食室を使い、受け入れのための仮設の工事等を実施しながら、整備を行っていきたくと考えています。

小林委員

用地交渉については、現在どのような状況でしょうか。

小宮山学校施設係長

正式には今後行っていきますが、事前に事業内容については、お話はさせていただいています。

直井委員

揚げ物・焼き物・汁物・炊飯等センター内で調理しますが、それらの天井については、構造的にも変えているのでしょうか。天井については一番配慮いただきたいです。気にしていても問題が起こりやすいところです。

小宮山学校施設係長

基本設計では化粧ケイ酸カルシウムボードで施工する予定です。機器の上部分については、かなり熱を持つこととなりますので、委員の皆様のご意見を反映させていただきます。

花岡市長

上記部分については、フードをあててほしいところです。

小宮山学校施設係長

現在の計画においてもフードをあてるような計画になっています。周辺への影響についても今後の計画の中で検討していきます。

花岡市長

床についてはどうでしょうか。

小宮山学校施設係長

床については、塗床よりも調理用床シートの方がオーソドックスなものであり、衛生面において抗菌性や防カビ性に優れていること、塗床より調理用床シートの方がコストも抑えることができるようです。

深井教育次長

続きまして、議題(2)小中学校の不登校についてです。事務局からご説明します。

高野学校教育係長

説明します。先月末に令和5年度の全国の不登校児童生徒の在籍比率が発表されました。在籍比率は、小学校では、市が2.63%、県が3.05%、国が2.14%という結果になっています。中学校では、市が6.57%、県が7.57%、国が6.71%となっています。50日以上欠席している児童生徒の比率は、小学校も中学校も、国や県に比べ、大分低い割合となっています。不登校児童生徒の一人ひとりの状況は、家庭状況や子どもの発達特定等様々な要因が絡み合っています。保護者の不安定さや養育の課題、また学校では家庭に入りにくい場合もあることから子どもサポートセンターにも積極的に関わりを持ってもらっています。市では数にはとらわれず、その児童生徒に合った学びの場をどのように作っていくのかという方針で対応しており、多様な子どもの状況に寄り添いながら学びを進めていける支援を大切にしていきたいと考えています。

#### 深井教育次長

現時点での国や県の状況を報告しました。中学校については、昨年度と比べて減少していることから成果が見られたようにも思われます。この内容について、ご意見等ありますでしょうか。

#### 小林職務代理

不登校について、学校に問題があれば解決のために対応していくことができますが、例えば家庭に問題がある場合には学校は介入しづらいことが現状です。原因別に力の入れ方を変えていくことはどうでしょうか。全部対応していくと、市が疲弊してしまいます。

#### 花岡市長

子どもサポートセンターは、家庭に原因があるところに入ってもらって対応しています。

#### 畑田指導主事

それだけでなく、特性のある子どもたちにも関わってもらっています。この特性については、家庭環境による影響を受けることが多いことが現状です。保健師や社会福祉士、臨床心理士等専門職に対応していただいています。

#### 長岡指導主事

定例教育委員会でも話題になっていますが、数に目を向けるのではなく、その子の学びの場を支援していくということで対応しています。そういったところでは、子どもサポートセンターは非常に機能していて他市町村にはない点であると思います。

50日以上欠席するという児童生徒が、県や国のレベルと比較してもかなり低くなっていることが現状です。それは子どもサポートセンターの成果が非常に大きいと感じています。当然学校でも繋がりを作ろうとしていますが、子どもサポートセンターにも支援してもらうことで早期に相談や対応ができていると思います。

#### 深井教育次長

続きまして、(3)小中学校の学力等の状況についてです。今年度の全国学力状況調査の結果を踏まえ、事務局から説明します。

#### 高野学校教育係長

説明します。全国学力状況調査は、小学校が国語と算数、中学校が国語と数学、加えて学習状況に関する質問紙があります。

まず小学校の国語についてです。市の正答率は県や国とほぼ同等レベルです。特に正解率が低かった問題は、目的や意図に応じて集めた材料を分類したり関連づけたりして伝え合う内容を検討するものです。また、自分の考えを、資料を活用して伝えるという問題も同様に正答率が低くなっております。正答率の分布は平均よりやや低くなっております。

続いて算数についてです。市の正答率は県や全国と比較してやや下回っている状況です。計算に関して成り立つ性質を活用して計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかの問題や、速さが一定であることをもとに、道のりと時間の関係について考察ができるかどうかという問題で正答率が低い傾向にあります。

小学校の質問調査では、生活のリズムを問うものについては全国より良い状況でした。また、メディアの関わりについて、親との約束の中で利用しているように思われます。先生やとの関わりについては良いという結果が出ています。国語や算数が好きという回答が多い一方で理科や英語はあまり好きではないという結果もあります。

続いて、中学校の国語です。市の正答率は、県や国と比べてほぼ同等並みです。情報と情報の関係を理解する問題と、目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかを見る問題に課題がありました。数学については、市の正答率は県や国と比較してほぼ同等の状況であります。連続した偶数を、文字を用いた式で表す問題や等式を目的に応じて変形する問題で課題がありました。

質問調査については、小学校と同様に生活リズムについて問うものは良い結果が出ております。ゲームや動画等の視聴についても小学校と同様です。生徒と先生の関係も比較的良い結果が出ています。友達関係に満足しているかという内容については非常に高くなっております。また、ICTの授業内での利用状況について、全国よりも高い結果が出ております。研修を実施して、有効活用している傾向にあり、学習の1つのツールとして利用ができている状況がうかがえます。また、家庭学習の時間が全国より少ないという結果があり、家庭学習が大きな課題であると思われま

#### 長岡指導主事

年毎に、結果に波がありますので一概に比べられませんが、今年度については成績分布が山成りになっており、平均点近くを得点する児童生徒が多くなってきていることは事実です。

#### 小林職務代理

今年度は正規分布していますが、昨年度は二極化していました。この結果の要因は何かということが重要です。教育委員会として、何に力を入れてきたのでしょうか。

#### 深井教育次長

校長会や教頭会において、どの問題の正答率が高く、どの問題の正答率が低いのか、といった分析等、学校へのフィードバックを行っています。

#### 長岡指導主事

中学校では、数学や社会で自由進度学習を取り入れ、学習の個別化にかなり力を入れて取り組んでいます。ICTを使った学習の利用頻度はかなり増えており、基礎的な内容のドリルが活用されているように思われます。今後、各校の学力に関する分析も行いますので、そういった内容も今後

に反映させていくことができたかと考えています。

深井教育次長

(4)小学校の入学者数についてです。事務局から説明します。

高野学校教育係長

説明します。令和6年5月1日現在の市内小中学校在籍者数、令和7年度の入学者数、住民基本台帳に基づく令和8年度以降入学者数を比較すると、年々減少傾向にあります。今年度5月1日現在の人数は、小学校は1415人、中学校は772人であり、令和元年度と今年度の児童生徒数を比較すると、小学校は89.6%、中学校は95.8%となっています。現在の住民基本台帳に基づく令和12年度入学者数と今年度を比較いたしますと、小学校が81.2%、中学校が87.3%であり、小中合わせて2割程度減少する見込みとなっています。

深井教育次長

地域的要因もありますが、子どもの数は減少傾向にあります。こういった人口推移の中で、小学校中学校の在り方についてはその都度遅れていかなないように検討していかなければならない内容です。

小林職務代理

学校において、複式学級となる1学年あたり9人という決まりがありますが、この人数になる時期は2060年よりまだ先の話です。統廃合を考えるにあたっては、まず複式学級になるかどうかの話が先にあると思います。

花岡市長

9月議会での一般質問の答弁についてはどのような答えをしたのでしょうか。

深井教育次長

人口推移とは別に、統廃合をする要因の1つとして、同じ時期に建てられたため、どの学校も建物が老朽化していることがあります。経済的な面も踏まえて、検討を始めていく必要はあるのではないかと考えていると回答しています。

花岡市長

その際、私から、小学校単位の地域づくりを推進する立場から小学校は残していくという回答をさせていただきました。

建物の新古については中学校の方が新しいですが、人数的には県内でも有数の多い学校と地域に1つしかない学校を存続させていく意義は何も考えられません。英語や理科等の専科の配置を考えていくことが必要であり、ハード面とは別に、検討していくことが必要かと思われます。小学

校区にとらわれずに中学校区を作ることは検討すべきなのではないかと思われます。

#### 土屋教育課長

学校の統廃合に関する考え方については、文部科学省が適正規模等の手引きを作成しています。中学校においては、まず学級を越えた集団編成を作る際に、同学年に複数教員を配置するために少なくとも1学年2学級以上、学校全体で3学年6学級以上が必要になります。その中で、専科については免許外の人が教えざるをえない等の事情の発生が見込まれます。全ての授業において適切に学習指導を行うためには、少なくとも9学級以上の学校規模が適正であると示されています。

#### 小林委員

他市では、その年によって学区を変えていたことがあり、年毎に全く異なる学区の生徒が同じ中学校に通っていることもありました。

#### 花岡市長

旧東部町については、中学校を1つにするという合意があり、1つの学校になっています。

#### 直井委員

ここ数年長く見ても、北御牧の学力状況については悪い状況ではありません。これには、先生方の努力があるからこそだと思います。また、小規模校は子ども一人ひとりに目が行き届きやすくなります。大規模校になるとどうしても、先生方も協力関係が薄れてしまうことも懸念されます。

#### 花岡市長

人口が減ることに対して恐怖しすぎずに、健康で良い人生を送ることが一番であると思います。

#### 深井教育次長

人口動態については今後も引き続き確認をしながら、さらに、施設が小学校は古く中学校は新しいこと、地域づくりの根源は小学校であること等を踏まえて今後どういった議論をしていくのか、長いスパンの中で検討が必要になっていくのかと思われます。今回は入学者数から見た学校の在り方について、有意義な議論になったかと思われます。

以上で令和6年度第3回東御市総合教育会議を閉会とさせていただきます。